

# 令和5年度 学校自己評価システムシート (県立鶴ヶ島清風高等学校)

目指す学校像	地域に貢献できる人材の育成
--------	---------------

重点目標	1 「自ら考える力」の育成 2 「健全な職業観・勤労観」の育成 3 地域との連携・協働による「地域参画力」の育成
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	7名

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標		年 度 評 価 (1月9日 現在)					
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策				
1	<p>■現状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>指導者用端末等のICT機器を活用した授業実践や「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が広がっている。</li> <li>令和5年度入学生から1人1台端末環境下での学習指導が展開される。</li> </ul> <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新学習指導要領で育む資質・能力の獲得に向けた各教科での指導に加え、教科等横断的な学びも充実させる必要がある。</li> <li>国の「学校教育情報化推進計画(R4.12策定)」等を踏まえ、令和5年度入学生からの1人1台端末環境下における「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させる必要がある。</li> </ul>	ICTの効果的な利活用による授業改善	<p>①学力の三要素(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」)を基盤に、「わかる・考える・できる」を具現化する授業をICTの利活用も含めて実践する。</p> <p>②新学習指導要領が養成を目指す資質・能力の三つの柱を踏まえ、授業研究(研究協議)・授業分析・授業評価等に取り組むとともに、教科等横断的な学習を展開する。</p> <p>③生徒の学力・学習状況を的確に把握し、小人数学級編制、習熟度別授業や単位制等のメリットを最大限に生かした「個別最適な学び」と「協働的な学び」を行う。</p> <p>④1人1台端末環境下におけるICTの効果的な利活用による校務の改善及び教育活動におけるGoogle WorkspaceやClassi等の活用を総合的かつ計画的に行う。</p>	<p>①②新学習指導要領の理念を踏まえた授業研究(研究協議)・授業分析・授業改善・授業評価等を実施できたか。</p> <p>③「学校評価アンケート」の授業理解度に関する調査項目の肯定回答割合が9割程度になったか。</p> <p>①②③④「学校評価アンケート」の学習指導に関する調査項目の肯定回答割合が9割程度になったか。</p> <p>④1人1台端末環境下での校務及び授業におけるICTの効果的な利活用方法が確立されたか。</p>	<p>■ICTの利活用も含めて学力の三要素をバランスよく育むための授業の更なる工夫・改善が必要</p> <p>①②学力向上推進委員会による教員相互の授業公開週間の年間3回の設定、ClassiNOTEを活用した授業研究、視点別学習状況の評価に関する教員研修会等を実施した。</p> <p>③「学校評価アンケート」の授業理解度に関する調査項目の肯定回答割合は73.6%(昨年度81.2%)であった。</p> <p>①②③④「学校評価アンケート」の学習指導に関する調査項目の肯定回答割合は94.0%(昨年度95.8%)であった。</p> <p>④令和6年度までの3か年計画で整備される指導者用端末の割り当て数が教員数の2/3に達し、校務や授業における活用実績が向上したが、効果的な利活用方法については未だ模索中である。</p>	B	<p>■次年度への課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日々の実践の中でデジタル技術の良さを生かし、「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実と教員の働き方の効率化を図る必要がある。</li> <li>「主体的・対話的で深い学び」の実践で自己効力感ややり抜く力などの非認知能力を更に向上させる必要がある。</li> <li>社会の変化に対応し、自ら課題を発見し解決する力や、多様な価値観を持つ人々と協働しながら新たな価値を想像する力を育む必要がある。</li> </ul> <p>■改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業改善や校務効率化を図るため学校におけるデジタルトランスフォーメーション(DX)を総合的かつ計画的に行う。</li> <li>「主体的・対話的で深い学び」の視点を持った授業改善や教科等横断的な学習を進めるとともに他者と協働しチームで問題を解決する取組を行う。</li> </ul>
2	<p>■現状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>計画的・段階的な本校独自の「キャリア教育プログラム」を実施し、コミュニケーション能力や社会性の育成を含めたキャリア教育を展開している。</li> <li>集団生活におけるルール、マナーやモラルを遵守する指導を行うとともに、生徒が主体的に活躍する場を創出している。</li> </ul> <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>早期段階から自己の能力・適性・感性等についての理解を深め、自己の成長を見据えた確かな進路選択に繋げる必要がある。</li> <li>将来の職業生活に向けて基本的な生活習慣や規範意識を育み、利他の精神を更に醸成する必要がある。</li> </ul>	将来の職業生活に向けた利他的精神の醸成	<p>①「鶴ヶ島清風アカデミア」での探究活動を中心に、地域企業等と連携したインターンシップ、外部講師等を活用したキャリアガイダンスや進路講演会、各種見学会、大学等授業体験等を計画的に実施する。</p> <p>②体育祭や文化祭等の学校行事に全ての生徒が主体的に参加することができるよう工夫・改善を進め、利他的な行動や自発的な行動を取る生徒の活躍の場とする。</p> <p>③自己の能力・適性・感性等についての理解を深めるため、Classiのポートフォリオ機能と生徒手帳(いまみらい手帳)を効果的に活用する。</p> <p>④秩序ある学校生活を送ることを通し、思いやりの心と規範意識を培い、徳性を涵養するとともに、生徒の個別状況を早期に、かつ的確に把握し、組織的な指導を行う。</p>	<p>①「鶴ヶ島清風アカデミア」や本校独自の「キャリア教育プログラム」を充実させることができたか。</p> <p>①③「学校評価アンケート」の進路指導に関する調査項目の肯定回答割合が9割程度になったか。</p> <p>①②③④3年次生徒の第1志望進路の実現率が9割程度になったか。</p> <p>③④Classiのポートフォリオ機能や生徒手帳(いまみらい手帳)の活用がより一層推進され、面談等によって生徒の個別状況が早期に、かつ的確に把握できたか。</p> <p>③④「学校評価アンケート」の生徒の目標設定に関する調査項目や学校生活に関する調査項目の肯定回答割合が9割以上になったか。</p>	<p>■将来の職業生活を営むために必要な利他的精神の理解・醸成が更に必要</p> <p>①「鶴ヶ島清風アカデミア」における地域課題の探究活動やインターンシップ、各種ガイダンスなど地域企業や機関等と連携した取組が充実した。</p> <p>①③「学校評価アンケート」の進路指導に関する調査項目の肯定回答割合は66.6%(昨年度63.6%)であった。</p> <p>①②③④3年次生徒の第1希望進路の実現率(12月末現在)は94.5%(昨年度91.2%)であった。</p> <p>③④Classiのポートフォリオ機能は行事や授業等で活用されつつあるが、生徒手帳(いまみらい手帳)の活用については課題が残る。</p> <p>③④「学校評価アンケート」の生徒の目標設定に関する調査項目の肯定回答割合は84.7%(昨年度85.1%)であった。</p>	B	<p>■次年度への課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会人・職業人として自立できるよう産業界等と連携したキャリア教育の実施や地域企業等と連携した実践的な職業教育を充実させる必要がある。</li> <li>「こども基本法」(R5.4.1施行)の理念を踏まえ、一人一人の状況に応じた教育を更に推進する必要がある。</li> <li>公共の精神に基づき個人と社会との関係を適切に理解するとともに、主体的に社会的課題の解決に向けた行動が取れるようにする必要がある。</li> </ul> <p>■改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体系的・系統的なキャリアガイダンスを実施するとともに、家庭や地域・企業等と連携した職場体験やインターンシップを実施する。</li> <li>教育相談活動や特別な教育的支援などの教育的ニーズの多様化に対応するための教職員の専門性の更なる向上と校内体制を整備する。</li> <li>発達支持的生徒指導を展開するとともに、多様な人材と協働する力の育成を目指す学校行事、探究的な学習や体験学習を実施する。</li> </ul>
3	<p>■現状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症が感染症法の分類を5類に引き下げられることを受け、教育活動における制限・制約は緩和される方向にある。</li> <li>学校説明会の運営・実施方法や中学校訪問等を省力化しつつ、最大限の効果が得られる形に見直しを図った。</li> </ul> <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>WITHコロナ/AFTERコロナ時代における学校・家庭・地域との連携・協働による教育活動や地域貢献活動を更に推進する必要がある。</li> <li>学校における働き方改革を推進するため、県内中学校等卒業生数の減少を念頭に置きつつ、更なる効果的・効率的な学校広報活動の取組を模索する必要がある。</li> </ul>	WITHコロナ/AFTERコロナ時代の更なる充実	<p>①WITHコロナ/AFTERコロナ時代における地域と連携した教育活動や地域貢献活動等の在り方と学校の働き方改革を総合的に検討し、学校・地域の双方が「WIN-WIN」となる取組を実践する。</p> <p>②専門教科目を始めとする授業や防災避難訓練、生徒指導や保健教育関連の行事等において、地域や外部関係諸機関等と連携した取組を実施する。</p> <p>③学校Webサイト、YouTubeを利用した動画配信、保護者向けの情報配信ツールとしてClassiやメール配信等を活用し、学校情報を更に積極的に配信する。</p> <p>④中学生及びその保護者等の中学校関係者に本校の教育活動の魅力をより効果的・効率的に伝える方法を検討・実施する。</p>	<p>①②学校内外のステークホルダーとの良好な協力関係の形成・維持に基づく学校教育活動が展開できたか。</p> <p>②授業や学校行事等における地域や外部関係諸機関等と連携した取組の実施件数が昨年度を上回ったか。</p> <p>③④学校広報・生徒募集業務の効率化と戦略的展開が更に進んだか。</p> <p>③④学校Webサイトの閲覧数が月平均2,000件を超えるとともに、「学校評価アンケート」の学校広報(学校Webサイト・Classメール配信)に関する調査項目の肯定回答割合が9割程度になったか。</p> <p>④中学生及びその保護者を対象とする学校説明会の参加者の満足度が9割以上となったか。</p>	<p>■新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後における学校・家庭・地域との連携・協働による教育活動の充実が概ね実現</p> <p>①②約75の事業所におけるインターンシップ、市民センターでのボランティア活動、近隣保育施設での実習授業や大学等の授業聴講等の取組を展開した。</p> <p>②制限や制約の緩和により、地域や外部関係諸機関等と連携した取組の実施件数は昨年度以上となった。</p> <p>③④学校説明会の実施回数を4回(昨年度5回)とし、新たに夏季休業中の部活動体験会を開催するなど学校広報活動の戦略的展開と効率化が進んだ。</p> <p>③④学校Webサイトの1日平均閲覧数(12月末現在)は約4,021件(昨年度2,000件)で昨年度比2.01倍に増加するとともに、「学校評価アンケート」の学校広報に関する調査項目の肯定回答割合は保護者95.8%(昨年度86.0%)であった。</p> <p>④学校説明会に参加した中学生及びその保護者の満足度(12月実施分まで)は96.0%であった。</p>	A	<p>■次年度への課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校・家庭・地域との連携・協働した教育活動や地域貢献活動を更に推進する必要がある。</li> <li>家族形態の変化、価値観やライフスタイルの多様化など家庭を取り巻く環境が変化する中、学校・家庭・地域の協力関係をより強固なものにする必要がある。</li> <li>少子高齢化や人口減少、グローバル化やDXの進展などの社会状況の変化に加え、県内公立中学校卒業生数の減少傾向を踏まえた学校広報活動の取組を模索する必要がある。</li> </ul> <p>■改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「協働教育ネットワーク会議」での意見・提言等を踏まえ、学校・地域の双方が「WIN-WIN」となるような取組と併せて中学生や地域住民をはじめとする県民の本校の魅力の認知度を高める取組を効果的に実践する。</li> <li>家庭を取り巻く環境の変化に対応できるよう教職員の資質・能力を向上させるとともに、PTA、関係機関や企業等と連携した家庭教育支援体制を構築する。</li> </ul>

学 校 関 係 者 評 価	
実 施 日 令 和 6 年 2 月 2 日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
■評価項目(年度達成目標)1に対する学校自己評価年度評価の達成度Bは妥当である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内小中学校は1人1台の学習用端末を導入して3年が経ち、毎日の授業や家庭学習では欠かせない文房具となっている。鶴ヶ島市は県内小中学校の中でも先進的に取り組んでおり、学びを繋げるためにも小中学校と高等学校の連携が必要である。</li> <li>教員間で授業におけるICT機器の使用頻度を更に高められると良い。</li> <li>ClassiNOTEを活用した授業研究で教員の授業力向上を図ったことは良いが、「学校評価アンケート」の授業理解度の肯定評価の割合が昨年度に比べて下がってしまったことは残念である。</li> </ul>
■評価項目(年度達成目標)2に対する学校自己評価年度評価の達成度Bは妥当である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の人生を主体的に生きていくためにも、目標や夢が持てて、それを叶えるための具体的な手立てについて教員が支援する取組が大切である。</li> <li>予め設定された「健全」の枠組みに押し込めることには疑問がある。また、利他主義の協調もプロセスを飛ばしているように思う。理解が困難な「他者」との交流を通じて、結果的に利他的振る舞いに至るということではないか。</li> <li>大学や短大等の進学者に対して、将来の職業を見据えて次年度にどのような授業(科目)を選択すべきかといったガイダンスを早期に行って欲しい。</li> <li>学校と家庭の信頼関係を築くためにも三面談の内容を工夫して欲しい。</li> </ul>
■評価項目(年度達成目標)3に対する学校自己評価年度評価の達成度Aは妥当である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの無償のボランティア的役割として地域の方のお力をいただく仕組みは限界にきていると感じる。真にWIN-WINとなるためには、誰もが犠牲にならない(善意の搾取にならない)ような仕組みづくりが必要である。</li> <li>今年度は西市民センターにおいて生徒にボランティアをしてもらったが、今後も鶴ヶ島清風高校の生徒と様々なイベントを行っていきたい。また、部活動の作品を飾ったり、発表(演奏)を行ったりするなど、地域の方に鶴ヶ島清風高校の活動を知ってもらえるようにしたい。</li> <li>保護者が学校の活動に参加できる場が増えると思う。</li> <li>夏季休業中の部活動体験は大変良かった。参加した生徒(中学生)からも体験できて良かったとの感想が聞かれた。</li> </ul>